

シンポジウム構成

第一部：筑波大学とビクトリア大学の連携協定への期待（English）

第二部：地域における高齢者のヘルスプロモーション

- ① ゲストプレゼンテーション
- ② パネルディスカッション

筑波大学とビクトリア大学の連携協定への期待

筑波大学と Victoria 大学は、部局間連携に基づく共同研究契約を締結した。両大学とも、健康科学・スポーツ医学に特化していて、今回は、「スポーツ・運動・健康」の研究施設である Institute of Sports, Exercise and Active Living (ISEAL)の所長である Michael McKenna 教授来日に伴い、様々な分野で、両大学間における共同研究の可能性を模索する。一例を挙げると、ISEAL はリアル・マドリッド財団と教育パートナーシップを結び、FIFA と共同でサッカーの研究を行っている。筑波大学も TIAS を筆頭に様々なスポーツに関する研究において、2020年のオリンピックに向けてスポーツ・健康の研究分野を牽引している。日本とオーストラリアを代表する大学間連携を基に、今後様々な研究が進んでいくことが期待される。

地域における高齢者のヘルスプロモーション

世界一の超高齢社会を迎えた日本において、社会保障制度を維持していくためには、シニア層の日常生活に抜本的な行動変容を起こし、健康促進に繋がる習慣を取り入れ、認知機能や歩行能力の低下を効果的に予防することが求められる。シニア層が、自発的かつ継続的に健康行動に取り組むためには、「費用・モチベーション・簡易性・効果性」などが必要条件として挙げられる。本シンポジウムでは、シニア層における地域のヘルスプロモーションをテーマに講じていく。

アカデミックプレゼンターについて



Michael McKenna 教授 Victoria 大学/ISEAL 所長

ISEAL 設立に最も貢献した人物。国際的な人体生理学の権威であり、特に筋肉の疲労、トレーニング、慢性的な病気に関連した「筋肉内のカリウムとナトリウム」のメカニズムを専門とする。2010年にはその功績により、Victoria 大学で最高の貢献をしたことで表彰されている。



水上勝義 教授 筑波大学

スポーツ健康システム・マネジメント専攻長。ストレスマネジメント専門の精神科医でもある。また、レビー小体型認知症の早期発見・診断の権威であり、薬物療法のガイドラインなど、多数の出版をしている。理事や評議員として、学界で活躍し、地域包括ケアなどの取り組みを先駆ける。ビクトリアー筑波大学での交流協定の世話人として部局間連携の確立に貢献する。



高橋義雄 準教授 筑波大学

Tsukuba International Academy for Sports Study (TIAS) のマネジメントディレクター。スポーツイベントを通じた地域形成や社会への影響などの研究を専門とする。特に、2020年の東京オリンピックに向けて、グローバルにスポーツ振興やスポーツビジネスを牽引している。



長野放 博士 Victoria 大学

歩行バイオメカニクスの権威 Begg 教授に指導を受け、優等学位 (Honours) を最高成績で修了し、大学賞を受賞。その後 International Postgraduate Research Scholarship を取得し博士課程を修了。歩行中の転倒を予防する靴のインソールを開発。Austin Health 病院にて、名誉生理学者に任命される。